

## Information

### 金曜プレミアム ビール列車 (企業交流会)

“ザ・プレミアム・モルツ”でプレミアムな列車の旅を。JR「ビール列車」を特別に1両貸切運行！列車で味わう注ぎたてのビールは格別です。参加が初めてでも安心。ボックスシート対抗のゲーム等を通して交流が深まり、一体感が生まれます。新しい人、新しい情報に出会う特別なFRIDAY。どうぞご参加ください。



■日 時：2017年7月28日(金)

熊本駅18:56発・21:15着 ※18:20熊本駅前集合

■参加費：6,000円 (往復JR券+ビール飲み放題+おつまみ弁当代が含まれます。)

■留意事項：○当日は名刺をお持ちください。○交流が目的のため、座席の指定はできません。○飲食物の持込もできます。※夜市は別料金です。○トイレは車両内にごさいます。(3両編成)○キャンセルについては、取消料が発生する場合があります。

■申込期限：7月18日(火) ※先着順につき、定員に達し次第締切

▼申込み方法などはホームページでご確認ください。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/philanthropy/3168.html>

## TOPIC

チャリティボウリング大会を6月9日(金)、ワンダーボウル南熊本店で開催しました。昨年は熊本地震で中止となり、今回は2年ぶりの大会。おなじみ“ストライク募金”などで大いに盛り上がりました。参加費の一部と募金は、仮設団地で生活する子どもたちのために役立てられます。



▶大会結果はHPで

YMCA フィランソロピー協会では、毎月の幹事会を中心にビジョンづくりを進めています。ビジョンとは、目指す姿・将来像のこと。当協会が地域に貢献し、存在の意義を認め・認められるための規範や基準となるものです。

設立から20年を越え、新たな局面を迎える中、社会や誰かのためになる喜びをさらに広げていきます。

## 会員企業



税理士法人 近代経営

熊本トヨタ自動車

熊本日日新聞

熊本銀行

RKK熊本放送

熊本印刷所

肥後銀行

RICOH リコージャパン株式会社

医療法人社団愛育会 福田病院  
株式会社エフエム熊本  
株式会社紙弘  
亀井通産株式会社  
株式会社亀井ランテ  
九州産業交通ホールディングス株式会社  
九州電力株式会社熊本支社  
九州労働金庫熊本県支部  
近畿日本ツーリスト株式会社  
熊本朝日放送株式会社  
株式会社熊本県民テレビ  
株式会社熊本製綿所  
熊本第一信用金庫  
熊本電気鉄道株式会社  
熊本ヤクルト株式会社  
コカ・コーラウエストベンディング株式会社  
株式会社スーブル  
株式会社 TAKATA PAPER PRODUCTS  
中央印刷紙工株式会社  
株式会社テレビ熊本  
東光石油株式会社  
西日本電材株式会社  
日立キャピタルオートリース株式会社九州支店  
富士ゼロックス熊本株式会社  
有限会社ゆうしん

(34社 2017年6月現在)

# Philanthropy Newsletter

企業と人の社会貢献

YMCAフィランソロピー協会

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/philanthropy/>



No.72

2017

## 人間力育む 社員合同ボランティア研修



9企業・団体の155名が参加(4月)

## CONTENTS

### 新入社員ボランティア入門講座

- ・ フィランソロピーとは、ギリシャ語の「人間愛」という言葉に由来し、人間愛にあふれる社会を目指す、企業の社会貢献活動を表す言葉として用いられています。
- ・ YMCAフィランソロピー協会は1995年10月に設立。熊本県内における企業の社会貢献活動とボランティア活動を推進し、2015年に20周年を迎えました。

YMCA Philanthropic Association

# Philanthropy Newsletter



YMCAフィランソロピー協会 事務局：公益財団法人熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8  
TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877  
E-mail : [ymca.philanthropy@gmail.com](mailto:ymca.philanthropy@gmail.com)  
<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/philanthropy/>

ニュースレター No.72

編集：YMCAフィランソロピー協会事務局

印刷：株式会社城野印刷所

発行：2017年6月



企業と人の社会貢献

# 受講者2500名突破 新入社員ボランティア入門講座

## 感じ方の違い学ぶ 人間力育成の合同研修

4月初旬、「第22回新入社員ボランティア入門講座」が開催され、9企業・団体の155名が参加しました。NPO法人ヒューマンネットワーク熊本から実際に車いすで生活する講師を迎え、入社したての社員らが食事介助や車いす試乗を体験。社会人・ボランティア活動の第一歩として、相手の立場に立って考えること、コミュニケーションの大切さを学びました。

■開催日：4月4日(火)・5日(水)・7日(金)・10日(月) ■会場：中央YMCAレクリエーションホール/城彩苑多目的交流室(10日) ■共催：(特非)自立生活センターヒューマンネットワーク熊本 ■参加：岩永組九州産業交通ホールディングス 近代経営 熊本トヨタ自動車 熊本日日新聞社 熊本放送 鶴屋百貨店 福田病院 熊本YMCA ■後援：熊本商工会議所 熊本経済同友会 熊本県中小企業団体中央会 熊本県商工会連合会 熊本県経営者協会 一般社団法人熊本青年会議所 熊本ロータリークラブ 熊本日日新聞社 NHK 熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FMK FM791



初めて講座が開催されたのは1996年。この時参加したのは、九州産業交通の新入社員42名でした。講座は、ヒューマンネットワーク熊本が従来学校向けに行っていた車いす体験講座をアレンジし、新たに食事介助体験を加えたもの。22回にわたる講座の受講者は2554名にのぼり、世代を超えて共通体験が受け継がれています。

## ■ ■ ■ 企業担当者の声 ■ ■ ■

### 体験を通じて、大きな気づき

講座への参加は、我が社では毎年恒例となっています。企業内では学べないものの、今後、仕事をしていく上で役立つ大きな気づきを与えてくれる素晴らしいプログラムだと思います。街なかで車いすを押したり乗ったりする体験を通し、社員たちには弱い立場の人のことを考え、行動することへの意識が芽生えるようです。私もこの講座の様子を見ながら、初心を忘れてはならないと痛感させられます。そして中堅となった社員にも、この講座を受けた時の気持ちを忘れないよう、喚起していきたいと思っています。



熊本放送 人事部長 浦谷 英明さん

### 相手の立場を知り、理解する

毎年、自社の新入社員研修の一環として参加しています。車いす試乗も食事介助も、自分が体験することで気づかされる部分に大きな意味があると思います。相手の立場を知ろう、心を理解しようとするこの大切さを学べるこの講座での体験は、社会人として働く上での一助になるはず。当社では福祉車両も取り扱っており、来店される方も様々です。社員一人ひとりが社会に貢献すべき立場であることを自覚し、相手の気持ちを考えることで一歩踏み込んだ提案ができる人材に育ってほしいと思います。



熊本トヨタ自動車 総務部 今村 信介さん

### 体験



#### 食事介助体験

二人一組で、食べさせる側と食べさせられる側を体験。一方は手を後ろで組み「無言で」「まばたきで合図」「会話しながら」の3つのパターンで、食事をする際の気持ちの変化を体感します。



#### 車いす講習

車いす各部の名称や機能について説明を受けた後、操作方法や乗り降りの仕方を実習。乗車者への声のかけ方や配慮の仕方など、より安全で安心できる介助法を学びます。

### 学び・気づき



#### 車いす試乗体験

実際に車いすに乗って、街なかを試乗。車いすに乗る、あるいは補助する役を交互に体験しながら段差越えや階段の上り下りなどを行い、目線の変化による感じ方の違いへの気づきを深めます。

### 振り返り・共有



#### グループ討議

講座を振り返り、グループで発見や学びを共有。新たなものの見方や人との接し方など、これからの社会生活に活かせることは何か、互いに発表し合い、意見を交わします。

### 実践

### 大切な信頼関係と声かけ

道路のわずかな段差や死角、横を通り抜ける車など、屋外で車いすに乗ることがこれほど怖いとは、想像もしていませんでした。それだけに、介助してくれる人と信頼関係を築くことや、相手に安心してもらうために声かけすることの大切さを学びました。仕事でも、相手に思いやりの気持ちを持って接することを忘れたいと思います。



熊本日日新聞社 元村 彩さん

### 相手の気持ちを汲み取る

食事を食べさせてもらう体験をして、自分の思いが相手に伝わらないもどかしさや辛さを感じました。表情などから相手の気持ちを汲み取り尊重することは、今後の仕事でも役に立ちそうです。また、車いすに乗ってみると、脇を走る車との距離が近く感じ、



とっさに動けないことに恐怖を覚えました。運転にも注意しなくてはと、気づかされました。 熊本トヨタ自動車 倉本 湧麻さん

### 同じ目線に立って

これまで、障がいのある人を「かわいそう、大変そうだ」と思っていました。しかし車いす体験を通して、同じ目線に立ち、皆がもっと暮らしやすい社会になるよう一緒に考え、行動していきたいと思いました。また、今回感じたコミュニケーションの大切さは仕事においても同じ。



今後は積極的に社内の人に話しかけ、よい人間関係を築きたいですね。 熊本放送 小田 侑大さん

### 街をもっとバリアフリーに

「話すことができれば、食べたいものが食べられるのに」と、無言で食事を口に運ばれた時に大きなストレスを感じました。車いす体験でも、自分の意思が反映されないもどかしさや、想像している以上に、日々大変な思いをされている方がいることが分かりました。バスの乗降を手助けする以外にも、街のバリアフリーの整備を考えていきたいです。



九州産業交通ホールディングス 谷口 仁美さん

### 「障がい」考えるきっかけに

以前から障がい者支援のボランティアをしてきて、自ら一線を引かずに接することの大切さを学んできたつもりです。ただ今回、自分が車いすに乗り、食事介助を受けてみて、違う立場で物事を見ることの意味を改めて考えさせられました。学生時代など、もっと早くにこのような体験ができて、考えるきっかけが増えるといいなと感じました。



近代経営 堤 優太さん

### 助けてと言ひ合える関係性

困った時に「助けて」と言うのは勇気が要ります。今後、困ったことがあったら諦めず、周囲の人に助けてもらえる関係づくりをしてほしいと思います。さらに「なぜここに段差があるのか」を一緒に考えてくれる人が増えることを期待します。仕事で注意を受けた時は「相手の立場だったら」と考えてみてください。少しずつ理解できるかもしれません。



ヒューマンネットワーク熊本 代表 日隈 辰彦さん